

都道府県別需要見通しについて

1 都道府県別需要見通し算出のウェイトの考え方

16年産米の都道府県別需要見通しを行うに当たり、全国ベースの需要見通しの数量を都道府県別の数量ウェイトで按分する必要がある。このため、都道府県別の数量ウェイトの算出手法として、以下の4案のいずれかの手法を検討することとしていたところである。

案 トレンド(回帰式)

案 2年移動平均の平均減少量

案 直近3カ年の単純平均

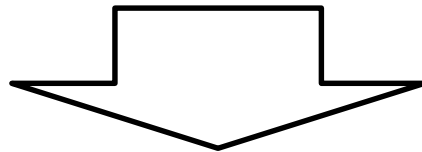
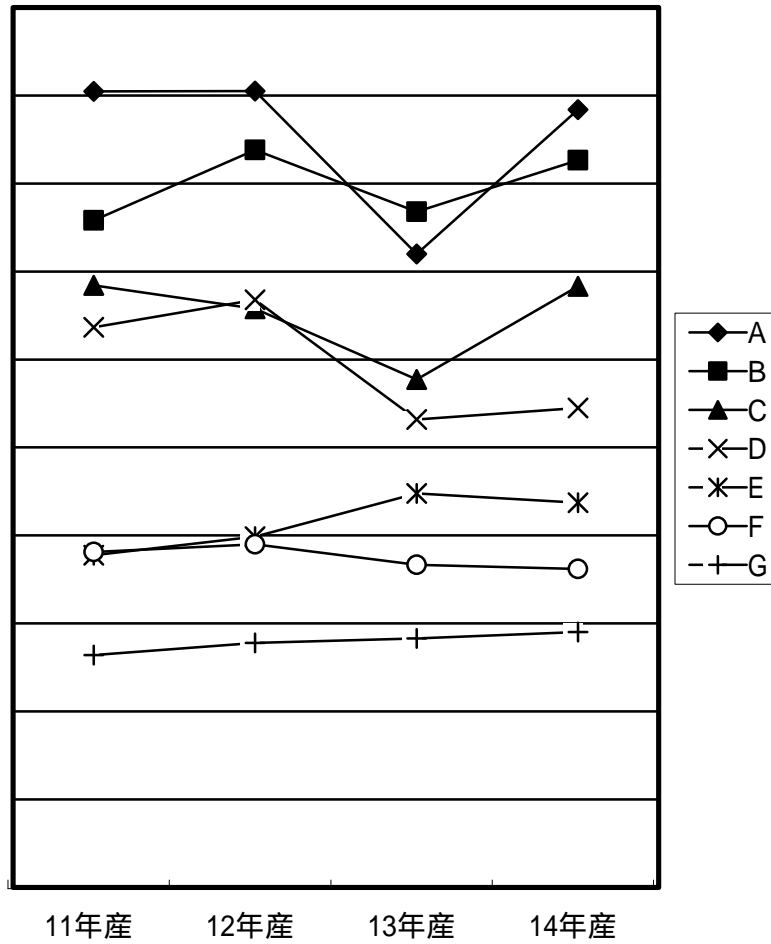
案 6月末在庫量を基点とした直近1年間の需要量

2 算定に用いる生産量・在庫量の諸元

- (1) 6月末時点の在庫量：14年産米までは、自主流通法人の在庫量のみから推計。このため、計画外流通米の取扱業者の在庫量や卸売業者等の販売業者の在庫量の変動の影響を反映できていない。
- (2) 生産量：統計情報部発表の水稻生産量から加工用米及び政府買入数量を減じた数量。
- (3) 需要量：生産量、在庫の増減及び政府米の販売数量の合計により算定。

なお、全国ベースの需要見通しにおいては、3年産からの12年間のデータが存在したものの、県別では11年産からの4年間のデータしか存在しない。

都道府県別需要量の推移



都道府県別需要見通し 案～ 案の比較

(単位:千トン)

	算定方式				差
	案	案	案	案	
A	364	345	399	418	73
B	401	393	387	391	14
C	295	291	305	323	32
D	214	209	277	257	68
E	235	245	204	207	41
F	164	169	178	171	13
G	146	149	135	137	14

注1: 二重枠は最高値、網掛けは最低値

注2: 差 = 最高値 - 最低値